

聞く技能と話す技能：

CALL 教材「クリック・ル・フランセ」を用いた授業

井上美穂 大木充 大久保政憲 伊藤直哉

(INOUE Miho, OHKI Mitsuru, OKUBO Masanori, ITO Naoya)

慶応義塾大学, 京都大学, 千葉工業大学, 北海道大学

連絡先 m_inoue@t.toshima.ne.jp

1. 本稿の目的

CALL 教材「クリック・ル・フランセ」は、文法説明と文法練習問題を行った後、その文法項目を使った聞く練習と話す練習に移行する構成になっている。つまり、学習を4技能 (compréhension orale/écrite, expression orale/écrite) に区分する立場をとり、そのうちの2つの技能の上達を目指した教材である。一方、最近欧州では *compétence* という概念が使われ始めている。本論では、まず *compétence* とは何かを解説し、次に *compétence* の考え方を4技能区分に基づいた教材「クリック・ル・フランセ」に生かすためにはどのような授業を行ったらよいかを検討する。

2. *compétence* について

2.1. *compétence* の言語学習における位置づけ

compétence という概念は、言語学習の枠内でどのように位置づけられているのだろうか。UN CADRE EUROPÉEN COMMUN DE RÉFÉRENCE POUR LES LANGUES (これ以降 CECR に省略)の chapitre 5 に、*compétence* についての詳しい解説がある。この chapitre 5 の題名 "Les compétences de l'utilisateur/apprenant"を見ると、*compétences* とは l'utilisateur/apprenant が備えているものと解釈できる。次に l'utilisateur/apprenant が何であるかを調べると、以下の記述がある。

"on part du principe que l'apprenant de langue est en train de devenir un usager de la langue de sorte que les mêmes catégories pourront s'appliquer aux deux." (CECR, p.40)

つまり、apprenant de langue は usager de la langue になりつつあるのだから両者は同じように扱うことができるという考え方にもとづき、l'utilisateur/apprenant というとらえ方がされている。そして、コミュニケーションの場で要求される tâche や activité をこなすために、l'utilisateur/apprenant は複数の *compétences* を使うとされる。

"Afin de mener à bien les tâches et activités exigées pour traiter les situations

communicatives dans lesquelles ils se trouvent, les utilisateurs et les apprenants utilisent un certain nombre de compétences" (CECR, p.82)

ここで言われている *tâche* とは、「マニュアルに従って家具を組み立てる」という実際的な内容から、「論文を書く」という抽象レベルの内容までのすべてを指す(Ducrot)。以上をまとめると、*compétence* とは、*tâche* を実行するために l'utilisateur/apprenant が使うものであるという位置づけができる。セクション 2.2.から 2.4.までにおいて、*compétence* が具体的に何を指すのかを分類し、定義づけを行うこととする。

2.2. *compétences* の分類

CECR の chapitre 5 では、*compétences* が列挙され、解説がなされている。そして、その様々な *compétences* には、今まで応用言語学でなされてきた数々の研究結果が反映されているように思われる。

2.3. 言語に直接関係していない *compétences*

compétences は、まず、言語に直接関係していない *compétences générales* と、直接関係している *compétences communicatives langagières* に大別される。前者はさらに、以下の4種に分類される。

Savoir

Aptitudes et savoir-faire

Savoir-être

Savoir-apprendre

Savoir には、*connaissance du monde* (CECR, p.82)、目標言語の社会や生活に関する知識 *Savoir socioculturel* (CECR, pp.82-83)、母語と目標言語の社会の相違点や類似点に関する知識 *Prise de conscience interculturelle* (CECR, p.83)が含まれる。3番目の *Prise de conscience interculturelle* には、異文化研究が取り込まれていると見受けられる。

Aptitudes et savoir-faire には、基本的な生活能力を指す *Aptitudes pratiques et savoir-faire* (CECR, p.84)、2つの文化に折り合いをつけて異文化衝突の際に適切に行動できる能力を指す *Aptitudes et savoir-faire interculturels* (CECR, p.84)の2種類がある。後者には、やはり異文化研究の成果が反映されていると思われる。

Savoir-être (CECR, pp.84-85)は、学習者がどのようなタイプの人物なのかという知識で、これにはおそらく *Learner factors* 研究が影響しているであろう。そして *Savoir-apprendre* (CECR, pp.85-86)は、学習者が新しい知識を認識し、それを取り入れる能力で、学習ストラテジー研究との共通点があるのではないだろうか。

2.4. 言語に直接関係している *compétences*

言語に直接関係している *Compétences communicatives langagières* は、次の3部門に分かれており、おそらく *Functionnal Grammar* (機能文法)の影響を受けているものと思われる。

Compétences linguistiques
Compétence sociolinguistique
Compétence pragmatique

Compétences linguistiques は語彙・文法・意味・音韻・つづりに関する能力で、機能文法の Ideational function に類似している。例をあげれば、ランコントロールのアトリエ会場に入ってきた司会者が「この部屋は暑くないですか？」と発言した場合の、「この部屋」の「こそあど」が正確に使える能力、「暑く」のアクセントが「厚く」の低高高ではなく、低高低に言える能力などを指す。

2 番目の Compétence sociolinguistique は、marqueurs des relations sociales, règles de politesse, différences de registre, dialecte et accent が適切に使える能力で、機能文法の Interpersonal function にあたると思われる。上述の例であれば、面識のないアトリエ参加者に向かって「暑いので窓を開けて下さい」と直接的な表現で指示するのではなく、「この部屋は暑くないですか？」という婉曲表現によって司会者が意図を伝えることができている能力などを指す。

3 番目の Compétence pragmatique は、適切な構造を持つメッセージが作れる、意図した fonction に見合った表現が使える、場面に合致した会話の流れを追うことができる等の能力で、各々、談話分析・notional-functional syllabus・スキーマ理論の研究成果が反映されていると考えられる。そして、Compétence pragmatique という部門自体は、機能文法の Textual function に類似している。先ほどの例を続ければ、アトリエ会場に入った司会者が挨拶し、「この部屋は暑くないですか？」と言った結果、参加者が同意を表して窓を開け、司会者がお礼を言う、という一連の想定通りの流れが遂行できる能力などがそうである。

2.5. Compétences のまとめ

以上の分類をわかりやすく簡易にまとめると、compétences とは、次のことが行える能力の総体を示すと定義できるだろう。

Compétences générales 言語に直接関係していないもの

- Savoir ---> 一般知識と異文化知識
- Aptitudes et savoir-faire ---> 一般生活能力と異文化適応能力
- Savoir-être ---> Learner factor どのようなタイプの学習者か
- Savoir-apprendre ---> 学習ストラテジー

Compétences communicatives langagières 言語に直接関係しているもの

- Compétences linguistiques ---> 語彙・文法・意味・音・つづりの力
- Compétence sociolinguistique ---> 対人関係に適した表現を使う力
- Compétence pragmatique ---> message organisé を作れる・意図した fonction に適した表現が使える・場面にふさわしい会話の流れを知っている

3. Compétences を、既存教材へ応用する

3.1. どの *compétences* を採り入れるか

compétence という観点から考えると、既存の「クリック・ル・フランセ」はどのような教材なのだろうか。文法項目を出発点として、それに語彙を組み合わせ、聞く練習または話す練習にすすむ形式をとっているのが、主に扱われているのは、2.4.で述べた *compétences* のうちの *compétences linguistiques* である。また、話す練習では必ず一連の会話形式がとられているので、*compétence pragmatique* も取り込まれている。この2つの *compétences* 以外にまだ5つの *compétences* があるが、どれをどのような形で採り入れることが可能だろうか。欧州では、言語教育に携わる場合は2.5.のすべての *compétences* を考慮に入れるべきであるとされている。しかし、日本で「クリック・ル・フランセ」を使用しながら、すべての *compétences* を採り入れた授業を行うことは非常に難しい。日本の学習環境に合わせた取捨選択が必要である。

3.2. *savoir* 導入の可能性

近接未来・近接過去を使って話す練習（クリック・ル・フランセ7課）では、進学や就職を控えた日本の3月が場面設定となっている。これをフランスの9月という設定に変え、学用品をスーパーに買出しに来た親子の会話でパターンを作って話す練習の補助教材としたらどうだろうか。例えば、次のようなパターンを用意して、「～」の部分に学用品の語彙を入れ替えていく練習が考えられる。

(1) 子ども : *Qu'est-ce qu'on va acheter maintenant?*

母親 : *On va acheter ～.* (近接未来で話す練習)

(2) 子ども(商品を手に取りながら) : *J'aime bien ce ～.*

母親 : *On vient d'acheter un ～. Tu le rends sur l'étagère.*

(近接過去で話す練習)

このようにすれば、毎年9月はフランスの新学期で、学用品を手押しかごに満載した親子連れがスーパーなどで見られるという知識を得ることができる。つまり聞く練習や話す練習の場面設定に、フランス語圏に関する情報を盛り込むことにより、*savoir* の *compétence* を導入することができる。

3.3. *aptitudes et savoir-faire* 導入の可能性

教材を本部に取りに来たのに、必要数が本部になかったという場面設定での会話が11課にある。このような時、本部が謝るか謝らないかについては、日仏で対応に差が出る場合がある。まず、日仏で対応に差がある可能性を示し、そのような場合にどのように対応したらよいかを問いかけるようにすれば、*aptitudes et savoir-faire* の *compétence* を導入できる。文化が異なれば言動にも差があることは、つい忘れてしまいがちである。そして日本の価値観だけで判断を下してしまうことになりかねない。語学の授業で異文化に接した時の対応の仕方を繰り返し考えることは、学習者の将来にとって有意義な教育となると考えられる。

4. むすび

まず、CECR において、*compétence* という概念がどのように位置づけられているのかを検討した(2.1.)。次に、CECR で提示されている 7 種類の *compétences* を解説した(2.2.~2.4.)。最後に、既存の教材「クリック・ル・フランセ」を用いた授業に、これらの *compétences* を導入する可能性について検討した。そしてクリック・ル・フランセが *compétences linguistiques* を中心に据え、そこに *compétence pragmatique* が組み込まれた教材であること、そして補助教材等により *savoir* や *aptitudes et savoir-faire* の *compétences* を導入することが可能であることを示した(3.1.~3.3.)。

文献

J.C. Beacco, *L'approche par compétences dans l'enseignement des langues*, Paris : Didier, 2007.

M. Di Giura, J-C. Beacco, *Alors? Guide pédagogique*, Paris : Didier, 2007.

<http://www.edufle.net/Savoir-mieux-determiner-un-profil>, "Savoir mieux déterminer un profil de compétences adéquat chez l'apprenant selon les niveaux du CECRL", *samedi 28 octobre 2006*, par jean-michel ducrot

http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Framework_FR.pdf, UN CADRE EUROPÉEN COMMUN DE RÉFÉRENCE POUR LES LANGUES : APPRENDRE, ENSEIGNER, ÉVALUER, DIVISION DES POLITIQUES LINGUISTIQUES, STRASBOURG

伊藤直哉, 細谷行輝, 大久保政憲, 大木充, 井上美穂, 『フランス語 CALL 教材 クリック・ル・フランセ』, 千葉: 独立行政法人メディア教育開発センター, 2006 年.